

製品・サービス動向-国内

■日本マイクロソフト：大画面ディスプレイを備えたコラボレーションデバイス「Surface Hub（サーフェス・ハブ）」の予約受付を開始

(9月3日)

日本マイクロソフト株式会社（東京都港区）
(<http://www.microsoft.com/ja-jp/>) は、大画面ディスプレイを備えたコラボレーションデバイス「Surface Hub（サーフェス・ハブ）」の予約受付を開始した。出荷開始予定は2016年1月から。



Surface Hub 84 インチ（日本マイクロソフト）



Surface Hub 利用イメージ（日本マイクロソフト）

Surface Hub は、Windows 10 搭載の大画面デバイスで、会議室の参加者だけでなく、ネットワークを介した外部の参加者なども会議室にいる場合と同じように共同作業（コラボレーション）が簡単に行えるようになっている。ディスプレイサイズによって 84 インチおよび 55 インチの二つのモデルが提供される。

特徴としては、タッチ操作やペン入力可能なディスプレイ（100 か所のマルチタッチと最大 3 つの同時ペン入力が可能）や 1080p の前面ビデオカメラなどが実装されているほか、内蔵 Wi-Fi、Bluetooth 4.0、NFC、有線・無線接続オプションをサポートする多様なポート群を備えている。

会議内容をホワイトボード機能で書き留めたり、遠隔地と「Skype for Business」を用いたビデオ会議を行ったり、「Excel」や「PowerPoint」などのコンテンツを共有しながら議論を行ったりすることで、より迅速な意思決定や生産性の高い議論が可能になり、新たな形の会議やコミュニケーションが実現できるとしている。

加えて、Surface Hub では Windows ユニバーサルアプリが利用できるため、導入ユーザの業務に最適なアプリを活用することで、顧客接客時の商談用店舗端末や工場棟での作業端末など幅広い活用できる。

日本市場での販売においては、株式会社内田洋行、株式会社大塚商会、ソフトバンク株式会社の 3 社が「認定 Surface Hub リセラー」としてユーザの円滑な導入を支援する。

参考価格は、「Surface Hub 55 インチ」が 830,949 円（税抜、以下同）、「Surface Hub 84 インチ」が 2,374,059 円。なお、実際の販売価格は認定 Surface Hub リセラーによって決定される。また別途設置用の

マウントおよび設置作業費が必要となる。

日本マイクロソフトでは、Surface Hubをはじめ、クラウドプロダクティビティスイート「Office 365」、総合コミュニケーションプラットフォーム Skype for Business、タブレット Surface シリーズ、Windows10などのデバイスやクラウドを活用して、日本におけるワークスタイルの変革を全社的に推進していくとしている。

なお、日本航空株式会社（東京都品川区）はワークスタイル変革の一環として Surface Hub を導入する意向を発表している。また、株式会社 JAL エンジニアリング（東京都大田区）は航空機の整備工場現場での整備士業務の円滑化を図る実証実験を開始する。日本マイクロソフトによると、導入意向の表明および実証実験の実施は日本国内で最初の事例となるという。

■ポリコムジャパン：WebRTC 対応のコラボレーション ソフトウェア ソリューション 「Polycom RealPresence Web Suite」を発表

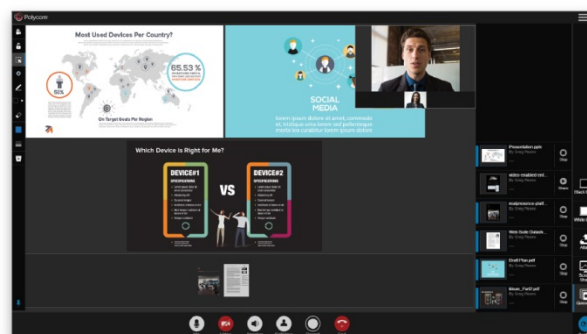
（取材：9月1日）

ポリコムジャパン株式会社 (<http://www.polycom.co.jp/>)（東京都新宿区）は、WebRTC に対応した、コラボレーション ソフトウェア ソリューション「Polycom RealPresence Web Suite(リアルプレゼンス ウェブ スイート)」を日本市場向けに9月1日から販売開始する。WebRTC に対応したのはポリコム製品では初めて。

Polycom RealPresence Web Suite は、ユーザがどこにいても、どのデバイスからでも、指定された URL リンクをクリックするだけでセキュアに Web ブラウザ上でビデオ会議を行えるようにする、オンプレミス向けのソリューション。

2013年11月に発売された「Polycom RealPresence CloudAXIS Suite」を機能強化し、名称を新たにしたも

のとなる。



Polycom RealPresence Web Suite の画面イメージ
(ポリコムジャパン)

特徴としては、社内ディレクトリ (Active Directory) を統合 (会議の招待状を簡単に送信) でき、ワンクリックで接続できるため、出席者は社内においても、社外においても、急な会議にも、予定された会議にも容易に参加できる。加えて、全体的な出席者の管理・ミュート機能・グループチャット・会議中の招待などのツールを活用することで、会議を効率的にかつ効果的に管理することもできる。

上位版となる「Polycom RealPresence Web Suite Pro」は、WebRTC に対応 (プラグインなしで使用可能) するほか、ホワイトボード/ブラックボード機能、マウスを使ってフリーハンドで書き込みができるアノテーションなどの機能が利用できる。

また、1対1会議や最大3人までの WebRTC ブラウザによる小規模な会議に最適な「メッシュモード」(MCU を使用しない方式) と、より大規模なアドホック会議や予約会議に最適な「ブリッジモード」をサポートしている。これらのモードにより、必要な場合のみ MCU を使う形にするため、MCU のリソースを最適化することができる利点もあるという。

さらに、ひとつの画面に最大6つのコンテンツを同時に共有・表示・比較・編集ができるマルチコンテンツコラボレーションにも対応した。専用機であればひとつのコンテンツを共有する形が普通だが、Polycom RealPresence Web Suite Pro では、6つの共有された

コンテンツがひとつの Web ブラウザ画面にサムネイルのように表示され、それぞれのステータスがわかるとともに、ユーザがその中から自由に任意のコンテンツを選び、共有・編集作業を行えるようになっている。

販売は、ポリコム認定販売代理店を通じて提供される。価格はオープン。Polycom RealPresence Web Suite は、MCU・端末管理・ファイアーウォールなどから構成される「Polycom RealPresence プラットフォーム」上で動作するシステムであるため、すでに Polycom RealPresence プラットフォームを導入済みのユーザは Polycom RealPresence Web Suite を購入するのみでシステムを導入できる。

ポリコムは今年秋創業 25 周年を迎える。爆発的にヒットした「SoundStation」音声会議端末からスタートし、ポリコムをビデオ会議市場 No.1 リーダーに押し上げたセットトップ型ビデオ会議システム「ViewStation」(90 年代後半に発売)を覚えている人は多い。現在ワールドワイドに 40 万社以上のユーザ企業がポリコムソリューションを日々活用している。またマイクロソフト「Skype for Business」に対応したポリコム製品は 40 製品を超える。

「テクノロジーの革新」「エンタープライズ向けソリューション」「マイクロソフトとの提携」の戦略 3 本柱でポリコム製品の差別化・強みを発揮し、ビジュアルコミュニケーションで実現する「未来のワークプレイス」をポリコムがリードしていく考えだ。

■ポリコムジャパン：ビデオ会議向け録画ストリーミングサーバ、エントリーレベルのビジネスメディアフォン 2 製品、ソフトウェア開発キットの提供を開始

(9月1日)

ポリコムジャパン株式会社 (<http://www.polycom.co.jp/>) (東京都新宿区) は、ビ

デオ会議向け録画ストリーミングサーバ、エントリーレベルのビジネスメディアフォン 2 製品、ソフトウェア開発キットの提供を開始する。

ビデオ会議向け録画ストリーミングサーバ「Polycom RealPresence Media Suite」は、既存のビデオ会議端末を活用して、ライブ Web キャストや録画済みの映像資産を簡単に配信することができるソリューション。

使い慣れたビデオ会議端末を使用して、高品質な映像コンテンツを簡単に作成することができるほか、ブラウザベースのキャプチャーツール、セルフサービス形式のワークフローにより、組織内の誰もが映像の制作・共有・配信が行える。

ネットワークベースの録画では、同時に最大 100 のビデオセッション、最大 50 イベントのライブストリーミングが可能で、さらに最大 10,000 人の視聴者が Web キャストと録画ビデオを同時に見ることができる。



Polycom VVX101(ポリコムジャパン)

エントリーレベルのビジネスメディアフォン「Polycom VVX201」および「Polycom VVX 101」は、高品質な音声で、社内の共有スペースや在宅勤務環境などで利用できる SIP 電話機。VVX シリーズに新たに投入された新製品となる。



Polycom VVX201(ポリコムジャパン)

ソフトウェア開発キット「Polycom RealPresence Video App SDK」は、要件定義から設計・プログラミング・インストール・テストに至るまで、企業の既存の業務用アプリケーションとワークフローに、ビデオソリューションをカスタマイズして統合するためのツールを提供するもの。

このツールにより、開発者は業界トップレベルのポリコムの専門技術を活用した統合ソリューションを構築することができる。

Polycom RealPresence Media Suite、Polycom VVX201、Polycom VVX101 は認定販売代理店を通じて提供される。価格はオープンプライスとなっている。

■ VidyoJapan：仮想化対応のバンドルソリューション「VidyoOne+」の国内販売開始

(取材：9月8日)

Vidyo Japan 株式会社 (<http://japan.vidyo.com/>) (東京都千代田区) は、仮想化対応エントリー向けバンドルソリューション「VidyoOne+」の販売を開始した。

VidyoOne+は、モバイル、デスクトップ、ルーム型グループシステム、レガシーH.323/SIP テレビ会議システム、さらには、VoIP システムまでも統合できるターンキー・オールインワンパッケージ・ソリューション。

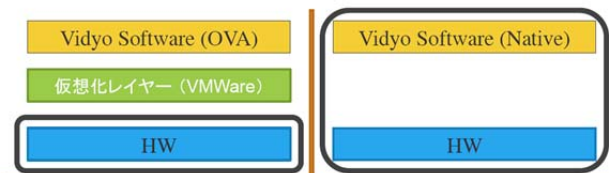
従来、パッケージソリューションとしては、「VidyoOne」(ハードウェアアプライアンス製品)として販売されていたが、今回発表された VidyoOne+では仮想化環境に対応したソフトウェア製品として提供する。加えて、新たにゲートウェイ機能も標準で提供される。

VidyoOne+が仮想化 (VMware) に対応したことのメリットについては以下の点などがある。(1) ハードウェアとソフトウェアの独立により、ユーザはハードウェアのライフサイクルの影響を受けなくなる。(2) 仮想レイヤーの管理機能を活用できる。(3) OVA(Open Virtualization Format Archive)形式での提供となるため複数のインスタンスを同一ハードウェア上で展開可能となる。

VE版とアプライアンス版の違い



- HWとSoftwareが独立します
- 仮想化レイヤーの管理機能が活用できます
- 複数インスタンスを同一HWの上で展開可能です



VE (仮想化対応版) とアプライアンス版の違い (VidyoJapan)

「ハードウェア専用機は、システムの拡張が難しい、更改にコストがかさむ、といったさまざまな課題があった。しかし、仮想化に対応したソフトウェアで提供される VidyoOne+により、導入から運用、管理、システムの拡張まで、ユーザのみならず IaaS 提供事業者の仮想基盤への展開など、ハードウェアの縛りのない柔軟な展開が可能となる。」(Vidyo Japan)

VidyoOne+では、4K 品質のビデオ・コンテンツ共有が可能で、標準 10 同時接続のビデオ会議多地点接続機能が提供されている (ただしユーザ登録数は 10,000 まで可能)。また、オプションで 10 同時接続を追加することも可能だ。アップグレードでさらなる

ポート数の拡張にも対応している。サードパーティ製 H.323/SIP システムとの相互接続にも対応している。

コンテンツ共有の面では、最大 4K ネイティブ解像度でのコンテンツ共有、「VidyoSlate」によるアノテーションやホワイトボード機能、H.239/BFCP (H.323/SIP 端末とのコンテンツ共有) などに対応している。

一方、導入・運用管理面では、既存のデータセンターやクラウド上に簡単に展開が可能で、設定・メンテナンスをシンプルにしているウェブ管理インターフェイスを採用している。そのほか、暗号化やファイアウォール・NAT トラバースにも対応している。

VidyoOne+が、“チームコラボレーションスタートパッケージ”と銘打っているとおり、SMB ユーザもしくは事業部ごとのビデオ会議導入を想定している。また、API を公開しているため、コールセンタなどさまざまな業務システムなどとの連携も可能だ。小規模ながら、汎用性のあるアプリケーションを大量に販売するケースなどに適用可能だ。



VidyoOne+ (VidyoJapan)

VidyoOne+ の構成内容は、「VidyoPortal VE」「VidyoRouter VE 25」「VidyoGateway VE」「VidyoDesktop」「VidyoMobile」「VidyoSlate」「VidyoWeb」が全てバンドルされる形。価格はオープンプライス。Vidyo の日本国内販売代理店経由にて提供される。

■ビキューブ：新バージョンの Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」を提供開始、H.264SVC に対応

(9月1日、取材:9月10日)

株式会社ビキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都目黒区) は、9月1日、9年ぶりにメジャーバージョンアップしたクラウド型 Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」を提供開始する。

新たに生まれ変わった V-CUBE ミーティングは、最新の映像・音声技術 H.264SVC を採用し、テレビ会議にも劣らないサービス品質を実現した。

スマートフォンやタブレットからの参加を前提としたインターフェイスへと進化させ、誰でも使いやすく、シンプルで高い操作性を実現している。

海外とのコミュニケーションの増加を受け、不安定なネットワーク環境下でも安定した利用を実現するため、専用ネットワーク環境を構築し、快適に利用できる高い接続性を実現している。

導入サポートや 24 時間 365 日問い合わせサポートといった体制が充実している。



V-CUBE ミーティング イメージ (ビキューブ)

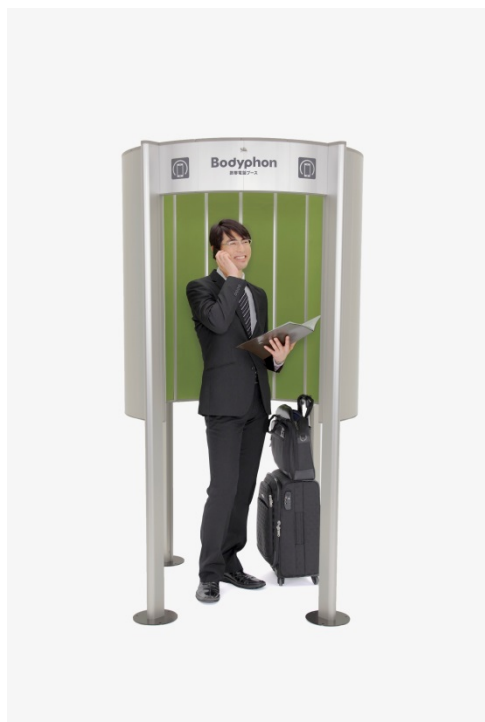
「ネットワークなど環境に合わせて最適な帯域で映像接続する H.264SVC に対応した。これによって、スマートフォンやタブレット端末、海外といった異なる環境下でも安定して利用が可能となり、高画質・高音

質にて利用いただくことを可能としている。」(ブイキューブ)

ブイキューブのサービスは、大企業から中小企業まで累計 5000 社の導入実績があり、8 年連続国内シェア No.1 (株式会社シード・プランニング調査) を達成している。企業のコミュニケーションプラットフォームに求められる万全のセキュリティを備えている。今回の新バージョンで、さらに安心、安全に利用できるサービスへと進化したという。

■インターマン：テレビ会議/Web 会議やデジタルサイネージなどとも組み合わせ可能な遮音型ブースを販売

(取材：8 月 27 日)



Bodyphon (インターマン)

インターマン株式会社 (<http://www.interman.co.jp/>) (鹿児島県鹿児島市) は、快適な通話や会話・会議が行える音環境を提供する遮音型携帯電話ブース「Bodyphon (ボディホン)」を 2013 年から販売している。

同社は、オフィスワークの快適化に貢献する各種ソリューションの開発および販売を行っている。東京・大阪・仙台に支店や営業所がある。設立は 1991 年。

「Bodyphon は、公共のための機器・設備として 2013 年度グッドデザイン賞を受賞している。以来、大学・企業・病院・警察など採用が広がっている。今後は、テレビ会議/Web 会議システムなどと組み合わせたソリューションも提案していく計画だ。加えて、海外での展開を目指し米国を始め各国での特許も取得及び出願中だ。」(同社 Bodyphon セールス担当 高木正勝 氏)

Bodyphon を開発した狙いは、駅・店舗といった公共施設や工場など騒音の多い場所、あるいは、オフィス・図書館・病院など周囲への配慮が必要な場所に対して、ある程度の密室性が保たれつつ、通話者がはっきりとした音を聞き取れることができるバリアフリー空間環境を提供するところにある。

それを実現するため Bodyphon はブース方式と吸音材の使用を組み合わせた構造となっている。これにより、周囲からの音を抑制するとともに、ブース内でのクリアな音声での会話を実現している。

同社が行った実験では、ブース外部の騒音レベル 90dBA である場合、内部では 16dBA 軽減できたという。特に人間にとって耳障りな高音域の入射音を緩和しているとしている。

ブース外壁には環境に負担の少ない再生素材のアルミを使用している。また、内壁には難燃性の高いファブリックで包んだ吸音素材を使用している。筐体は分解・輸送しやすい組立構造となっており、設置も簡単でかつ輸送コストも抑えられるメリットがある。さらに、安全性を考え耐震ジェルやアンカーボルトにも対応している。なお、寸法については H2125mm /Φ1,140mm。重量は 67kg。大人数人で運べる軽さという。

導入にあたっては、「購入プラン」と「リースプラン」を用意している。購入プランでは 1 台につき 55 万円

(税抜、以下同)で提供している。リースプランでは、リース期間により月額料金は変わる。たとえば5年リースでは1万円程度(参考価格)という。組立・設置・配送費(別費用)は4万円となっている。

同高木氏によると、Bodyphonは、単に遮音用ブースとして活用するだけにとどまらず、ブース内外にタブレットや液晶パネル、あるいは、テレビ会議/Web会議、デジタルサイネージ端末などを設置すれば施設のインフォメーションブースとしても活用できると話す。しかも、外壁には広告の設置も可能だ。さらに、昨今の外国人旅行者向けのテレビ電話を使った通訳ブースとしてもBodyphonは最適と同社では期待している。将来的には、一例として静脈認証機能との連携に向けた検討も行っている。

ビジネス動向-国内

■情報セキュリティ研究所：ブイキューブの協力で、ドローンを活用した災害対策やインフラ点検の実証実験

(8月31日)

NPO 情報セキュリティ研究所(<http://www.riis.or.jp/>) (和歌山県田辺市)は株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)と、ドローンを活用した、リアルタイムな映像による災害対策やインフラ点検に関する実証実験を実施した。

橋梁などの設備の定期点検などにドローンで取得した映像情報を活用するため、ドローン搭載のカメラで得られた映像を遠隔地のモニターに表示した画像精度が目視点検に耐えられるかどうかを検証することを目的とした実証実験(8月12日実施)。

和歌山県田辺市新庄総合公園にて、設備点検を想定、ドローンに搭載したカメラで公園内の鉄筋コンクリート製の野外音楽堂など大型施設を撮影。

その模様を、田辺市消防本部内から、ブイキューブ

のWeb会議サービスを使ってリアルタイムに会議室内にあるモニターで閲覧した。橋梁などの点検に有効であるか、撮影した映像情報の精度が目視に耐えうるものかを確認した。

今後、NPO 情報セキュリティ研究所では、地方自治体の防災・建築・施設管理の課題やニーズに対して、ブイキューブのビジュアルコミュニケーションとドローンを組み合わせたサービスの活用を検討していく。

なお、実験等の様子を10月29日開催予定の「地方自治体におけるドローン利活用研究会」にて、地方自治体の防災・建築・施設管理などの担当者に情報を提供する予定となっている。

ビジネス動向-海外

■Apple社とシスコシステムズ社：iOS エンタープライズユーザ向け高速レーンの提供で連携

(8月31日)

Apple社(<http://www.apple.com/>) (米国カリフォルニア州)とシスコシステムズ社(<http://www.cisco.com/>) (米国カリフォルニア州)の両社は、iOS ビジネスユーザ向け「高速レーン(Fast Lane)」の構築で協力すると発表した。

Apple社CEOティム・クック氏(プレスリリース内のコメント)によると、iOSはFortune 500とGlobal 500企業のほぼすべてがモバイル戦略の中心にiOSを据えているという。

今回、両社が協力することで、シスコネットワークとiOSはより効率的かつ高い信頼性を持って連携し、ユーザにより優れたパフォーマンスを提供できるように最適化する。

また、iPhoneと固定電話がシームレスに連携するほか、モバイル、クラウド、「Cisco Spark」、「Cisco Telepresence」、「Cisco WebEx」などのプレミスペースのコラボレーションツール全体でも、iOSとの連携を

最適化する。

導入・利用動向-国内

■ブイキューブ：台中市政府や熊本県、同玉名市と協力し、先生と生徒の約 80 年ぶりの再会をサポート

(9月9日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都目黒区) は、9月8日、台中市政府、熊本県、熊本県玉名市と協力し、熊本と台湾を Web 会議サービス「V-CUBE」で接続し、約 80 年近く離れ離れになっていた先生と生徒の再会を実現した。

再会を果たしたのは、玉名市在住の高木波恵さん (106 歳) と台湾台中市の烏日 (うじつ) 小学校 (旧烏日公学校) の卒業生 20 名の皆さん。



台湾では、20名の教え子の皆さまが参加



熊本では、くまモンが駆けつけ、正面に設置されたスクリーンに映る教え子と再会

交流の様子 (ブイキューブ)

高木波恵さんの自宅と烏日小学校大講堂を V-CUBE でつなぎ、同学校創立 100 周年記念イベントの一環で開催された。当時の教え子や同校の在校生など総勢 200 名が参加した。

記念イベントは、台中市長の挨拶からはじまり、生徒による合奏・合唱、「烏日小学校の歩み」ビデオ鑑賞、記念写真撮影など行われ、途中、くまモンもサプライズ登場するなど、参加者は終始和やかな雰囲気での交流を深めた。

高木さんは、戦前の 10 年間、烏日公学校で教鞭を執っていたが、当時を懐かしく思い、教え子宛てに手紙を出したのが交流のきっかけ。宛先が当時の住所だったにもかかわらず、郵便局員の懸命な捜索によって手紙は無事届いた。その後、手紙による交流が続いていたが、高齢で身体への負担も大きいため、直接訪問して会うことは困難だった。そこで今回の件を知ったブイキューブから支援を申し入れイベントが実現した。

今回、必ずしもインターネット環境が快適でない山里での接続となったが、2015 年 9 月にバージョンアップした V-CUBE ミーティングを利用することで、台湾との国際間の通信も問題なく、スムーズな面会を実現することができたという。

PR

>株式会社日立ハイテクノロジーズ

<http://cnar.jp/Hitachi-HighTech3.htm>

セミナー・展示会情報

<国内>

■BIG PAD を活用したクラウド型 Web 会議サービス「TeleOffice」体感セミナー

日時：9月16日(水) 14:00~16:00

会場：シャープ株式会社 東京支社 (東京都港区)

主催：シャープビジネスソリューション株式会社

詳細・申込：

<http://www.sharp-sbs.co.jp/event/regular/teleoffice-a.html>

■ITPro EXPO 2015

日時：9月30日(水) ~10月2日(金)

会場：東京ビックサイト

主催：日経 BP 社

詳細・申込：<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/2015/>

■Polycom Day--ビジネス環境の変化に合わせたビデオ会議ソリューションへの移行、最適化、Microsoft Lync 連携などをサポートするポリコム グローバル サービス ソリューションをご紹介します！

日時：10月21日（水）15:30～16:30（開場：15:15～）

会場：ポリコムジャパンセミナールーム

主催：ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込：<http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

※Polycom Japan Testing Lab の紹介も予定されている。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2015年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

Webの方の情報もご参照ください。

人材募集-国内

遠隔会議関連企業での人材募集情報を掲載しています。

■Acano 社--ビデオ会議ソリューション

-セールスエグゼクティブ（日本）

http://acano.com/open_position/asia-pacific/sales-executive-japan/

-セールスエンジニア（日本）

http://acano.com/open_position/asia-pacific/sales-engineer-japan/

CNAレポート・ジャパン 2015年9月15日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp